

学校通信

学校生活における大切なお知らせです

7

2026 JUL

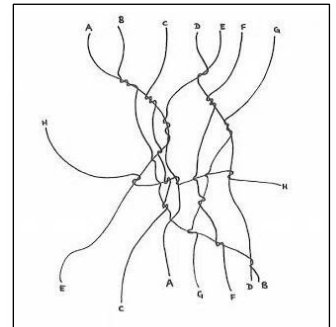
第 278 号

学校長からのメッセージ

本格的な夏の到来を感じる季節になりました。

私の大学での社会福祉学科時代、この時期になると心が躍ったものです。当時の私はボランティアやアルバイト、キャンプなど、脈絡のない挑戦に明け暮れていました。実は「楽に単位がとれそう」と選んだフィールドワークの授業からキャンプにどっぷりはまってしまい、三重県の山奥で10泊11日のキャンプをしたこともあります。確固たる計画があったわけではありません。気がつけば「やってみなければ分からない」と、あえて細かい計画を組まない旅のように動いていました。今は脈絡のない挑戦とは言えませんが、YMCAで様々な方と出会うたび、予期せぬ発見に視野が広がる毎日です。

イギリスの人類学者ティム・インゴルドは、世界を「メッシュワーク（線の織物）」という言葉で説明しました。人生とは、決められた点と点をつなぐレールではなく、一人ひとりの歩いた軌跡（線）が、糸のように複雑に絡み合っ紡がれる一枚の美しい織物だという考え方です。



Ingold, T. (2007) Lines: A Brief History (1st ed.) Routledge pp82 Figure3.1

私たちはつい、「計画的に行動しなければ」「早く社会に適応しなければ」と自分を追い込んでしまいがちです。過去の経験から一歩を踏み出すことに大きな勇気が必要な生徒にとっては、プレッシャーとなってしまいます。

ですが、人生を真に豊かにするのは、計画通りのゴールに最短距離で着くことよりも、あえて余白を残した旅先で出会う、予想外のハプニングや人々の温かさだったりします。だからこそ、本校が用意するプログラムは、あらかじめ完璧なゴールは決めていません。通信制というゆるやかな時間や、このYMCAという多様な背景を持つ仲間が集う場所で、余白を残した旅をしませんか。その旅は、自分のペースで参加しやすいものとなっています。

学びとは、座学の勉強だけではありません。勇気を出したその先で絡み合う「良き出会いと体験」という新たな糸が、皆さんの中に眠る「賜物（可能性）」をきっと引き出し、あなただけの美しいメッシュワークを紡いでくれます。私たちはいつでも、皆さんの歩みを応援しています。

(校長 池田 博人)

「あなたがたはそれぞれ、賜物を授かっているですから、神の様々な恵みの善い管理者として、その賜物を生かして互いに仕え合いなさい。」 ペトロの手紙一 4章 10節





今月の聖句

「主はあなたを見放すことも、見捨てられることもない。恐れてはならない。おののいてはならない。」

(申命記 31章8節)

神様は私たちを見放すことも、見捨てることもされないと言われています。いつも一緒にいてくださるのですが、私たちの目に神様の姿は見えません。そんな私たちに、神様はいろんな出会いを与えてくださって、その出会った誰かを通して神様の思いを届けてくださることがあるのです。

以前、我が家には黒猫がいました。サムソンという名前でした。サムソンは2002年2月生まれて、私の娘は2002年11月生まれました。つまり、サムソンのほうが9カ月ほど娘より年上でした。娘が赤ちゃんの頃からサムソンと一緒に生活をして、ずっと娘の成長を見守ってくれました。娘が中学1年の3学期から学校に行けなくなり、家に引きこもっていた時も、ずっと娘の布団にいてくれて、娘はサムソンを抱っこして寝ていました。一度は入学した高校も中退し、将来が見えない時期もサムソンは娘から離れませんでした。やがて娘が19歳になったとき、将来の夢を見つけ、専門学校に入学することになりました。それからは休むことなく毎日学校に通えるようになりました。その娘の姿を見届けて、もう大丈夫!と思ったのでしょうか、サムソンは2022年9月に20歳で天国に行きました。サムソンは神様が娘のために出会わせてくださった大切な家族でした。

皆さんにも神様からの宝物のような出会いがありますように。



「今月の聖句」 自己紹介

岸本 大樹(きしもと だいき)

大阪市旭区で牧師をしています。好きなことは、井之頭五郎のように『孤独のグルメ』を実践すること(ただし、B級やC級専門)、スーパー銭湯でボーっとすること…。

